



「大人の責務」

浩志会調査研究フォーラム
最終全体研修会 発表

2010年7月3日
第27フォーラム



中間合宿時点での「進むべき方向」

**日本人としてお互いの価値観・存在を認め合いながら、
高い志(ビジョン)を持ち助け合う運命共同体**

- ①絶対の軸：
 - ・時代・世代を超えて共有できる価値観の醸成
 - ・教育拡充による心(道徳観・自ら考える力)の豊かな人づくり
- ②相対の軸：
 - ・国・社会としての夢のある将来像の構築
 - ・自信の回復

現代社会の**問題に共通する根っこ**として、以下の要因を推定

- ①個人：道徳観、倫理観の低下、思考の停止
- ②社会：社会としての教育力(人材育成力)低下、共同体的コミュニティの崩壊
共通の価値観、志の薄らぎ
- ③国家：将来への不安、自信の喪失

2. 中間合宿後にやったこと

～大人とは？誰に対する責務か？～

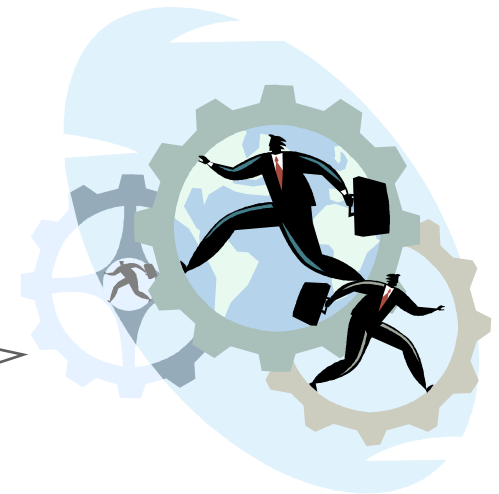
○大人とは

『我々の世代』に絞込み

○誰に対する責務か

上の世代を含めた社会全体への責務が考えられるが、今回は特に、『**次世代(若者、子供達)に対する責務**』にターゲットを絞って議論する

我々の世代と次世代
を見つめ直そう！



3. 第2フォーラムのフィールドワーク(全体)

独自企画

他フォーラム
浩志会
企画

「若者や子供たち」とは？

～先入観を捨て、現実の姿を直視しよう～

- mixi
- 大妻女子大学
- 校長対話

- 子供の貧困
- 藤原和博氏講演
- 小沢治夫氏講演

「大人」とは？

～自分自身を改めて振り返ってみよう～

- 親子対談
- QOL調査
- ゴミ拾い
- おやじ日本

- 大人(親父)の責務
- アサザ基金の交流



3. -① mixi 講演会

平成22年2月12日 (株)ミクシィ 原田取締役mixi事業本部長
SNS「mixi」のご紹介～生活コミュニケーションプラットフォームへ～

問題意識

地域、社会、国などのコミュニティへの帰属意識が低下して、
人と人の「つながり」が希薄化していないか？

講演内容

☆mixiの特徴☆

- ・共感や共有をコアバリューに多様な
コミュニケーションスタイルの提供
 - ・従来のポータルと異なる新たな価値創造
 - サービスの核：
人の「つながり」を豊かにすること
 - 利用実態：
分散・多様化するなかで「つながり」求め
平均200名の「リア友」とつながっている
- インターネット社会の安全性・健全性向上のため監視・フィルタリング、教育・啓発を推進

3. -① mixi 講演会

平成22年2月12日 (株)ミクシィ 原田取締役mixi事業本部長
SNS「mixi」のご紹介～生活コミュニケーションプラットフォームへ～

運営者の狙い

- ・希薄で「バーチャル」な「つながり」ではなく、
「リアル」な「つながり」を深化するツールを志向

まとめ(使ってみました!)

- ・人と人の関係継続・強化のツールに使える
- ・先入観(不健全とか...)を持ってはいけない
- ・若者は意外と繋がっているかもしれない
- ・出会い系や荒しもあり/テラシーは重要



行動してみて初めて分かることが多い
(このツール、実は浩志会会員向き?!)



3. - ② 大妻女子大学の学生へのインタビュー 7

H22.4.19 大妻女子大学家政学部ライフデザイン学科宮田安彦准教授のゼミに潜入！！

問題意識

若者は今の日本をどう見ているのか？
実際に意見を聞いてみよう！

学生はこんな風に見ている

社会モラルの低下。特に40～50代の浩志会
世代（接客業のアルバイトでの実感）

大人に対して→自分の将来像のモデルに
キャリアウーマンよりも専業主婦志向？

欲しいものはあまりない。今の生活がずっ
と続けば・・・でも、就職活動はとても不安

就職厳しいし
、専業主婦に
なりたいなあ。



まとめ

世代間ギャップは大きくない。

今の大人の姿を通して自分の将来像を見ている。

学生の希望や夢は、今の日本社会の現状に敏感に対応したもの

<写真省略>

オイルショック等の激動を克服した
OBとの対話

平成22年3月12日(金)

まとめ

問題意識

親の世代が、若い時は？
親は今をどう見る？

対談内容

- ・昔は世代GAP感じず
- ・格差がエネルギーの源
- ・困難克服するため、無我夢中に必死に頑張った
- ・今の時代を乗り越える、唯一の正解などない。

- ・出席OBは、今なお、本当にエネルギーギッシュ
- ・当時、世代GAPを感じなかった理由は、次世代が、元気に頑張る親の背中を見て、自ずと、頑張ろうと思ったから？
- ・親が元気でなければ、子も元気は出ないのでは！

3. - ④ ゴミ拾い

平成22年5月15日(土)午後 目黒川沿い(大崎～下目黒)

問題意識

何事も行動してみないとわからない。
まずは身近なところから、何かやってみよう。

気づいたことや、感じたことや

- ・**ゴミはほとんど大人の排出したもの。**
これでは子供に範を示せない！
- ・ゴミは行政サービスが処理するのが当たり前になっており、大人自身が自ら排出するゴミに責任を持たなければならないという意識が希薄になっているのでは？
- ・好意的な反応が多く、素直にうれしかった！

まとめ

まずは大人自身が反省し、自らの行動を正すべし。

何事も行動してみないとわからない。行動すれば発見があり、ものの見方がかわる。

<写真省略>

3. - ⑤ 私たち浩志会参加者のQOL調査

H22.4月末～5月上旬 当フォーラム13名、配偶者13名、子供16名が参加！ QOL: Quality of life

問題意識

子供たちの自尊感情(およびQOL)が低い！
・それは、大人の影響があるのではないか？
・私たち浩志会参加者について調べてみよう！

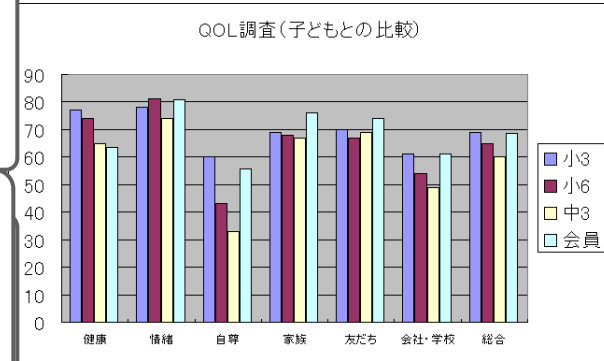
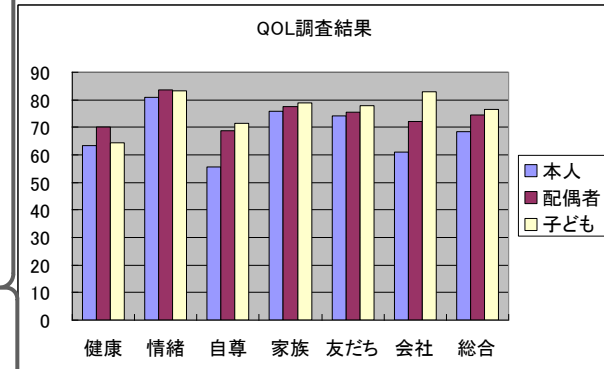
結果

我々は十二分に元気で自尊感情も高い！
(小学校中学年と同じ心の若さ)
家族からは更に高い評価を得ている！

まとめ

- ①家庭や職場では、生き生きした姿を維持している(自信を持とう！！)
- ②そのエネルギーを地域の子供たち、大人たちに対して行使しよう！(具体的行動につなげよう！)

※参考図書 日本の子供の自尊感情はなぜ低いのか
著者 古荘 純一



【調査方法】
国際比較可能な小2～高1対象のQOL調査用紙を大人向けに改変しオリジナル調査票を作成
浩志会員による自己評価、配偶者からの評価、子供からの評価を実施(多面評価)

3. - ⑥ おやじ日本全国大会参加

H22年6月20日(日)2名が参加(1名は実行委員として)!!

問題意識

地域や社会で具体的に行動している先達に学ぶ

公教育を取り巻く環境、課題を知り、我々の行動宣言の参考とする

討議内容

形式 パネルディスカッション(3時間)

参加者 全国から約300名

1. テーマ「公立学校の現状と課題」

2. 話題

- ・先生の長時間労働と賃の問題
- ・非現実的な学習指導要領
- ・担い手のいない部活動

3. 改善の方向性

- ・地域で学校をサポートする体制
- ・画一的でない公教育への変身
- ・開かれた学校運営

まとめ

国力の源泉たる公教育の復権のため、

1. 一市民として、企業として公教育を応援しよう
2. 公教育には変化の兆しが表れている

<写真省略>

4. フィールドワークおよび中間合宿後の論議を通じて 気付いたこと、考えたこと

若者と子供

- ・ 所与の環境において**合理的に**思考し行動
- ・ **環境を作っているのは大人**
- ・ 大人とは異なった他人とのつながり方がある

企業(含む官庁)

- ・ 社員にどんなメッセージを発信しているか？
- ・ 社会にどんなメッセージを発信しているか？
- ・ **若者や子供にどんなメッセージを発信しているか？**

一般その他共通

- ・ **やってみないとわからない！ やってみると、ものの見方が変わる。**

大人

- ・ 物足りない若者と**子供は鏡に映った大人世代の姿**
- ・ 「**あなたの夢は何ですか？**」
- ・ 家庭や職場だけで頑張っている(相対的優位性の追求)
- ・ **街を汚しているのも大人！**

日本国家、社会

- ・ 「**努力すれば報われる**」と**素直に信じられない社会**
- ・ 自分がよければ、という意識
- ・ 危機感がないから行動しない
- ・ 子供たちが持つ機会の格差

我々がまず真摯に反省しよう！～見られる背中は大いいか？～
一人ひとりが、今、家庭・地域・職場においてビジョンをもって生きているか、改めて自問せよ！

若者と子供に対して

- ・ 否定や批判から入らない
- ・ 彼らの環境、**思考の前提を理解し、それをいい方向に変えていこう**

自分たちに対して

- ・ まず、自信を持とう
- ・ **夢、志を持とう**
- ・ 具体的行動につなげよう

企業や役所の中核として

- ・ **若者や子供に夢を与えたい**
- ・ 企業ももっと社会と関わろう
- ・ 社員にもっと社会と関わらせよう

国家や社会に対して

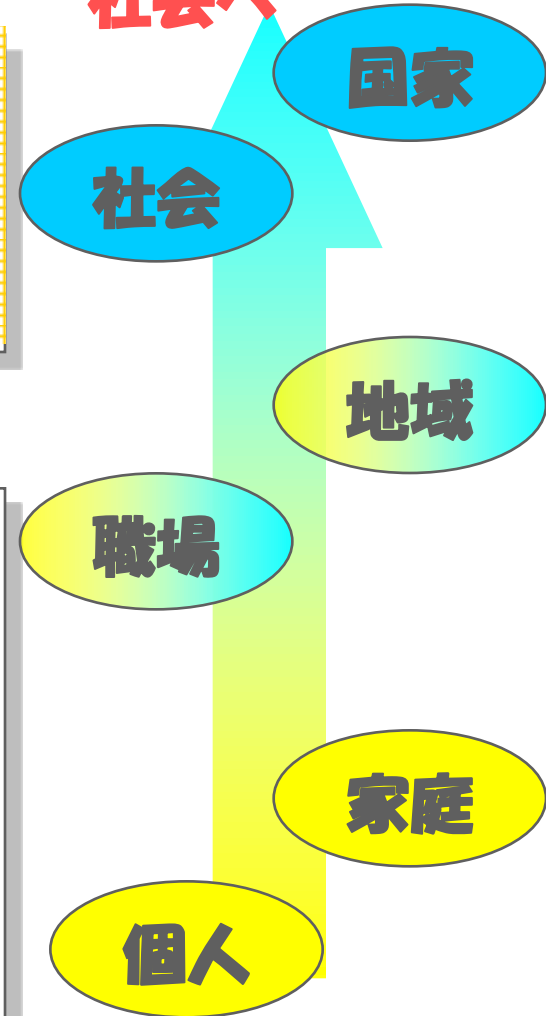
- ・ **「こんな国、社会にしたい」**を持とう
- ・ その実現のため、閉じた世界から飛び出そう

5. 第27フォーラムの「大人の責務」

目指すべき社会

日本人として誇りを持ち、お互いの価値観・存在を認める社会
次世代に対し、夢を与える未来像の提供できる社会

個人から
社会へ



我々一人ひとりが、家庭・地域・職場のそれぞれにおいて、目的意識・当事者意識をもって行動する大人たれ！

第27フォーラム・メンバーは、こう行動します！ (家庭編)

躰のあり方

子供も自分も叱る

敢えて、厳しく

我慢強さを
身に付けさせる

自活へ向け
マナーを徹底

我慢して見守る

親のあり方

子供の前で溜息禁
止

親の言葉に責任を

まずは目線を
あわせて

文字にして伝える

つまらない話も
聞いてやる

まずは家庭を持つ

視野の拡大

社会の仕組みを
親子で語り合う

自分の人生につ
いて考えさせる

白地に絵を
描ける子育て

質の高い
原体験積ませる

植物でCO2削減

第27フォーラム・メンバーは、こう行動します！(職場編)

～我々は家庭に留まらないぞ！～

外に向って

多様な価値観尊重

顧客/社会との結びつきを意識した仕事

組織・会社を超えるコミュニケーション

出来るだけ社外と交わる

関係が薄い仕事・人へも積極的に関与

若手と

若手の中に飛び込む

自分から若手誘う

一方通行やめ対話

自分の経験の伝承

手取り足取り面倒みる

仕事/職場を通じて

採用の継続

ワークライフバランス実行

職場でも地域貢献を議論

職場でも「大人の責務」を話し合う

問題先送りしない

行動指針の浸透

第27フォーラム・メンバーは、こう行動します！(地域編)

～我々は家庭に留まらないぞ！～

「おやじ日本」の
役員

地域の相互扶助力
復活に力尽くす

ボランティアに
まず参加

小学校のおやじの
会に参加

町内会・ボランテ
ィアへの参加

ごみ拾い続ける

子供のスポーツ
チームに参加

居住地域の班長

ごみ拾い等の奉仕
活動

PTA/自治会の役員
KOTOWARANAI

町内会にまず参加

趣味の会に参加

学校行事・地域行
事への参加

隣人たちと「大人
の責務」語り合う



職場・家庭・地域の良好なバランス

